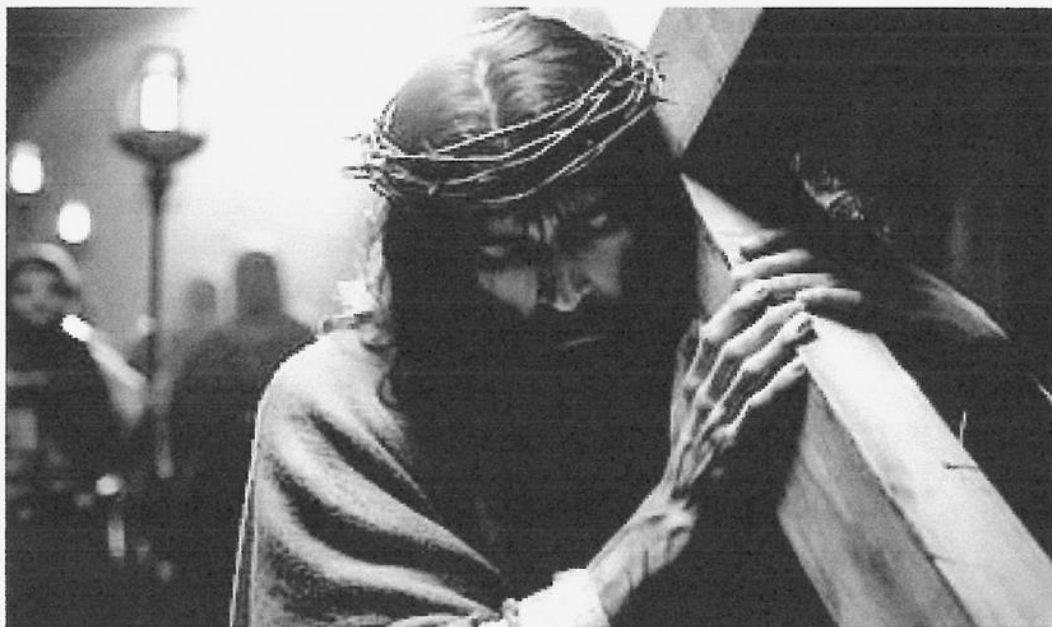


## <キリストにある神の愛>

ローマ8：35～39



十字架を担ぎ、ゴルゴダの丘へ向かうイエスキリスト

### 【アウグスティヌス】

ローマ帝国末期のキリスト教最大の教父。 \*教父：初期のキリスト教会の指導者  
ローマ13章13、14節のことばによって、鮮明にキリストと出会い救いを受け  
後世のキリスト教会に大きな影響を与えた。自伝の『告白』は有名。

キリストへの回心が、アウグスティヌスを偉大な人物に変え続けた。けれど、それは  
「自分の努力の賜物」ではなく「神からの賜物」ギフト。

私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはや  
これからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。 ローマ6：6

- ◆クリスチャンになってからも、古い人が自分を苦しめることがある。  
それがわかるのは、新しい人を着たから。無感覚となっていたら危険。
- ◆イエス様の十字架での犠牲が自分のためだったと理解が深まると、自分がどれほど  
神に愛されているかが、わかってくる。
- ◆「まだまだ自分はましな者だ」これが心を占めているうちは、わからない神の愛。

私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。【35節】

今の時代、私たちをキリストの愛から引き離すものはどんなものがある？

イエス様の十字架の苦しみに自分もあずかる → イエス様の十字架を自分ごととして理解する。

息子アブシャロムの謀反で、都エルサレムを追われユダの荒野でダビデが歌った。  
神よ。あなたは私の神。私はあなたを切に求めます。水のない、砂漠の衰え果てた地で、私のたましいは、あなたに渴き、私の身も、あなたを慕って気を失うばかりです。私は、あなたの力と栄光を見せるために、こうして聖所で、あなたを仰ぎ見えています。あなたの恵みは、いのちにもまさるゆえ、私のくちびるは、あなたを賛美します。 詩篇63：1～3節

喜びとは程遠い厳しい現実の中で、勝利の凱旋パレードをした将軍のような宣言  
しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、  
圧倒的な勝利者となるのです。【37節】

- ◆キリストの愛から引き離そうとするほどの苦しいことに直面して初めて、私たちは、キリストの十字架の苦しみを知り、そこにどれほどの愛が私たちに向けられていたのかを理解する。
- ◆十字架の苦しみと死にあずかる者は、同時に、復活の勝利と栄光にあずかる。